

報 告

障害者スキー普及講習会 第41回日本チェアスキー大会に参加して

尾上 美有紀¹⁾、柴田 佑¹⁾、辻村 和見¹⁾

1) 神奈川リハビリテーション病院

1. はじめに

障害者スキー普及講習会～第41回日本チェアスキー大会～(以下、チェアスキー大会)が2020年2月21日～23日に福島県南会津郡にある会津高原たかつえスキー場にて開催され、実行委員として運営に携わったので、私見を交えて報告します。



図1 ゲレンデにて集合写真

日本チェアスキー大会は、車椅子等で日常生活を送られている方の“チェアスキーを体験してみたい！”“私も滑ってみたい！”という声に応えるため、神奈川リハビリテーション病院の有志によるチェアスキーのイベントとして、1980年から継続的に開催されています。

2. 出発

基本は現地集合・解散ですが、車椅子ごと乗車が可能なリフト付バスを貸し切り、当院から出発しています。そのため、自動車を運転しない方や雪道の運転が不安な方でも安心してスキー場に向かうことができます。

3. スキーをする前の準備

今回は、医師や看護師の医療スタッフが受付時に



図2 リフト付きバスに乗車して出発

体温チェックや健康状態の確認を行いました。滑る前の準備として、特に初めての参加者や久しぶりの参加者には、身体状況に応じて滑りやすいようにチェアスキーを調整します。また、滑ってみて滑りにくい等の不具合がある場合は再度調整を行うなど、リハエンジニアがサポートします。

スタッフに対しては、介助講習を行ないます。そこでは、チェアスキーの乗り降りや、転倒時の対応、リフト乗降などの雪上で求められるサポート方法を学び、実際に講師を対象として体験します。



図3 チェアスキー検査 と 介助講習

4. ゲレンデにて

今回、14名の参加者、47名のスタッフ、総勢61

1) 神奈川リハビリテーション病院

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516

名でした。参加者は、技術レベルに合わせて6グループに分かれ、講習を受けました。

晴天に恵まれ、大自然の素晴らしい景色に囲まれて講習を行いました(図4)。



図4 大自然に囲まれて

はじめはなだらかな斜面で練習していきます。上級者になればこんな急な斜面(図5左)でも滑れるようになります。また、チェアスキーだけでなく、重度の障害がある方でも二本の板が付いたバイスキーで滑走もできます。スタッフがスピード調整を補助し、参加者が安全に楽しめるようサポートをしているところです(図5右)。“やってみたいけど、自分には難しいかなあ～”と思っている方でも、滑れます。



図5 講習風景

ついつい夢中になってしまうスキー！体調管理や参加者同士のコミュニケーションのため、ゲレンデ脇に特設休憩所を設けて、休憩と団らんの時間を設けています(図6)。



図6 ゲレンデ脇の特設休憩所にて団らん

スキーを楽しむだけでなく、自分の技術レベルを確認するための検定会も行われます。今回は、5名の合格者が閉会式で合格証と認定バッジを授与されました。

5. おわりに

チェアスキー大会に参加して、毎年新しい発見があり驚きの連続です。自分が滑って楽しいだけでなく、チェアスキーヤーと一緒に滑る事で特別な楽しさが感じられます。白銀の世界の中でのびのびと参加者と滑る事ができたり、検定で合格者がでるとその方だけでなく、スタッフとして参加した私も共に喜びを感じることもでき、とても楽しい時間を過ごせました。

この報告で興味を持ってもらい、この楽しさと感動を多くの人と共有できたらと思います。

次回、障害者スキー普及講習会開催予定

障害者スキー普及講習会
(第42回日本チェアスキー大会)

日程：2021年2月26日～28日

場所：会津高原たかつえスキー場

詳細は、決定しましたらWEBで公開をいたします。

日本チェアスキー協会

URL : <http://www.chairski.jp/>

写真提供：第41回日本チェアスキー大会実行委員会